



タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3303		
科目名	ボランティア論		
担当教員	黒田 洋司		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	木 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック(CR)との関連 E1 学識と専門技能(50%) B1 自己啓発(15%) I1 理解・分析と読解(20%) C1 倫理的思考・社会認識(15%)		
教員の実務経験	1991年から消防防災に関する専門的な調査組織である消防防災科学センター（旧消防科学総合センター）の研究者として、主に防災のソフト面（防災計画、防災マニュアル、防災訓練、ボランティア、自主防災組織、消防団等）に関する調査研究を行ってきました。最近では、総務省消防庁の「自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会」委員（平成30年度-令和元年度）を務めています。わが国のソフト面の防災対策は、1995年に起きた阪神・淡路大震災を契機に大きく変貌・発展してきました。その中で自主防災組織や消防団を含むボランティアがどのような位置にあり、社会的にどのようなことが期待されているのか等を実務上の知見と経験を活かして、講義を行います。（自主防災組織、消防団については第9回・第10回・第11回で解説）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	現在の災害対策は、ボランティアの存在なくしては成り立たない状況です。がれきの処理や被災者への炊き出し、生活物資の提供、心理的ケア、情報提供、児童教育など、災害の復旧・復興過程の幅広い分野でボランティアが活躍しています。個人や企業のボランティア、ボランティアを運営するNPO法人など、様々なステークホルダーがボランティアとして機能している実態があります。また、地域には、地元に着目した活動を行う消防団や自主防災組織というボランティア的な伝統的組織もあります。これらの活動について学び、災害対策においてボランティアを活用し、マネジメントする能力や防災・減災に関わるボランティア活動を客観的に評価できる能力を養うことを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（講義：オンデマンド型、質疑：ライブ配信型）を取り入		

	れます。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。 ■キーワード 災害ボランティア・阪神・淡路大震災・消防団・自主防災組織				
授業の趣旨	■副題 災害ボランティアの経緯と展開 ■授業の目的 災害ボランティアに関する基本的な知識と素養を身につけ(学識・専門技能E、理解力・分析力I)、さまざまな種類に分類できる災害ボランティアについて、それぞれの活動の経緯や内容を理解することを通じて、社会に貢献しようとする姿勢 (B) や倫理観・公共心 (C) を育むことを目的とします。 ■授業のポイント 災害時のボランティア活動は、「ボランティア元年」と言われる阪神・淡路大震災(1995年1月17日発生)以前にも多くの災害で見られましたが、わが国の緊急社会システム(災害への適応や災害からの回復に向けてさまざまな組織や集団が織り成す日常と異なる社会システム)の中でその位置付けは明確なものではありませんでした。阪神・淡路大震災では20歳代の若者を中心に100万人を超える人たちが全国各地から被災地に駆けつけ、被災者を支えました。その約7割は、それまでボランティア活動の経験がなかった人だったと言われています。巨大災害で出現した膨大で多様な被災者のニーズにボランティアが対処する中でさまざまな問題も発生しましたが、被災者を支える大きな力としてその存在が社会的に認知されました。阪神・淡路大震災でのボランティア活動は一過性に終わらず、その後各地で災害が起きるたびに多様な活動が展開され、今や災害時の緊急社会システムを構成する主体の一つとして当然の存在となっています。 一方、地域には、消防団や自主防災組織のように日頃から生活に密着した防災活動を行っているものもあります。その担い手は基本的に無報酬であり、「自分たちの地域は自分たちで守る」という信念を持ったボランティアと位置付けられます。こうした人々も、現在のわが国の緊急社会システムを考える上で欠かすことのできない存在です。 この授業では、こうした災害ボランティアの活動について経緯、活動内容、課題を解説するとともに、日常の活動の現場で取り組まれている防災図上訓練(災害図上訓練DIG、避難所HUG、防災クロスロード)についても紹介し、災害ボランティアの基本的な知識や素養を身に付けていきます。				
総合到達目標	■災害ボランティアの防災体制上の位置づけ、種類、経緯、活動について説明できるようになり、将来のキャリアの中で率先して災害ボランティア活動に取り組むための知識や態度を修得する。具体的には以下の通り。 ■災害ボランティアの全体像(種類と活動内容)を説明できる。(概略は第2回で解説、詳細は第3回～第13回で解説) ■災害ボランティア(特に被災地の外から駆け付けるボランティア)が社会の中で育まれてきた経緯を時系列で説明できる。(第3回～第8回) ■消防団や自主防災組織の概要と課題を説明できる。(第9回～第11回) ■災害ボランティア(消防団・自主防災組織を含む)が取り組んでいる防災図上訓練について説明できる。(第12回・第13回)				
成績評価方法	■レポート2回(100%): 適用ルーブリック E1・I1 (評価の観点) 災害ボランティアをテーマとした課題(授業時に具体的内容は指示)について、関連資料を読解してレポートにまとめることにより、必要な学識や情報分析力を問います。				
履修条件	特にありません。				
履修上の注意点	近年の災害については、インターネット上に自治体が編集した「災害の記録」が多数公開されています。興味のある「災害の記録」を読み、特にボランティアに関する事項を確認してみましょう。いろいろな「気づき」があるはずですので、授業中あるいは授業後に質問してください。				
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンスとわが国の自然災害概要 ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、わが国が経験してきた自然災害について、ボランティアの視点から特徴的なものを映像視聴することを通じて、災害ボランティアのアウトラインや意義を説明できるようになる。(B1、C1、E1、I1) ③予習(120分) 「災害」「ボランティア」をキーワードとしてホームページを確認し、興味深い箇所を閲覧しておく。 ④復習(120分) 映像で紹介した災害の詳細について、関連書籍やホームページなどで確認すること。</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンスとわが国の自然災害概要 ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、わが国が経験してきた自然災害について、ボランティアの視点から特徴的なものを映像視聴することを通じて、災害ボランティアのアウトラインや意義を説明できるようになる。(B1、C1、E1、I1) ③予習(120分) 「災害」「ボランティア」をキーワードとしてホームページを確認し、興味深い箇所を閲覧しておく。 ④復習(120分) 映像で紹介した災害の詳細について、関連書籍やホームページなどで確認すること。
回	内容				
1	①授業テーマ ガイダンスとわが国の自然災害概要 ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、わが国が経験してきた自然災害について、ボランティアの視点から特徴的なものを映像視聴することを通じて、災害ボランティアのアウトラインや意義を説明できるようになる。(B1、C1、E1、I1) ③予習(120分) 「災害」「ボランティア」をキーワードとしてホームページを確認し、興味深い箇所を閲覧しておく。 ④復習(120分) 映像で紹介した災害の詳細について、関連書籍やホームページなどで確認すること。				

2	①授業テーマ 災害ボランティアの全体像と防災体制の中での位置づけ ②授業概要 災害ボランティアとは何か、その全体像を説明できるようになる。そして、日本の防災体制の中での災害ボランティアの位置づけや意義を説明できるようになる。(B1、C1、E1、I1) ③予習(120分) 「日本の防災対策」(内閣府)のp6～8を学習しておく。 http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 講義の「今日のポイント」を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
3	①授業テーマ 阪神・淡路大震災以前の災害ボランティア ②授業概要 ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災以前の災害ボランティア活動について説明できるようになる。(E1、I1) ③予習(120分) 関東大震災、伊豆大島噴火災害、ロマ・プリエータ地震災害、雲仙・普賢岳噴火災害、北海道南西沖地震災害についてどんな災害だったのか確認しておく。 ④復習(120分) 講義の「今日のポイント」を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1990-1995雲仙・普賢岳噴火』第4章第5節、第6節を読む。
4	①授業テーマ 阪神・淡路大震災と災害ボランティア ②授業概要 ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災時の災害ボランティアの活動の特徴について説明できるようになる。(E1、I1) ③予習(120分) 阪神・淡路大震災がどんな災害だったのか確認しておく。 ④復習(120分) 阪神・淡路大震災時のボランティア活動についてホームページ等で確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
5	①授業テーマ 阪神・淡路大震災の体験を踏まえた防災クロスロード ②授業概要 阪神・淡路大震災での市民や神戸市職員の経験を踏まえて生まれた防災クロスロードを体験し、災害時のボランティア活動での意思決定にはさまざまなジレンマが伴うことを説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、防災クロスロードを実施する際の留意点も解説します。(E1) ③予習(120分) 予備知識として、「クロスロード新聞」を読んでおく。 https://maechan.net/crossroad/shinbun.html ④復習(120分) 体験した防災クロスロードで特に気になったテーマについてホームページ等で確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
6	①授業テーマ 阪神・淡路大震災以降の災害ボランティア ②授業概要 阪神・淡路大震災以降、どのように災害ボランティア活動やそれを取り巻く環境が進展していったのかについて説明できるようになる。(E1、I1) ③予習(120分) 「ロシアタンカーナホトカ号重油流出事故」「新潟県中越地震」がどのような事故・災害であったのか確認しておく。 ④復習(120分) 「ロシアタンカーナホトカ号重油流出事故」「新潟県中越地震」時のボランティア活動についてホームページ等で確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑

	義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。また、第7回授業で小テストを実施するので、これまでの学習内容を復習しておく。
7	①授業テーマ 小テスト及び東日本大震災と災害ボランティア ②授業概要 これまでの学習内容を小テストで確認することを通じて定着させることができる（15分の小テストと確認）（E1）。 2011年に起きた東日本大震災を受けて、どのような災害ボランティア活動が展開され、それはどのような特徴を有しているのかについて説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「東日本大震災 ボランティア」で検索し、東日本大震災に関連してどのようなボランティア活動が展開されてきているのかを確認しておく。 ④復習(120分) 東日本大震災とボランティア活動についてホームページ等で確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
8	①授業テーマ 情報ボランティアと専門ボランティア ②授業概要 さまざまな災害ボランティア活動の中で、情報の収集・伝達・発信をその活動の中心に置く情報ボランティアについて、その経緯や活動内容を説明できるようになる。（E1、I1） また、さまざまな災害ボランティア活動の中で、医療、福祉、建築など専門的な技能を生かして活動する専門ボランティアについて、その経緯や活動内容を説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「情報ボランティア」「専門ボランティア」で検索し、それぞれがどのようなボランティア活動なのかを確認しておく。 ④復習(120分) 「情報ボランティア」、「専門ボランティア」というキーワードでホームページ等を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
9	①授業テーマ 災害ボランティアとしての消防団 ②授業概要 災害に対処するために地域に伝統的に存在する消防団について、その成り立ち、現状、課題などを説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 予備知識として、消防庁「消防団ホームページ」を確認しておく。 http://www.fdma.go.jp/syobodan/ ④復習(120分) 「消防団」というキーワードでホームページ等を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
10	①授業テーマ 災害ボランティアとしての自主防災組織 ②授業概要 災害に対処するために地域に伝統的に存在する自主防災組織について、その成り立ち、現状、課題などを説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「自主防災組織の手引」（消防庁） http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2304-all.pdfを学習しておく。 ④復習(120分) 「自主防災組織」というキーワードでホームページ等を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
11	①授業テーマ 災害に備えた災害ボランティアの活動 ②授業概要 災害に備え、災害ボランティアが取り組んでいる防災訓練や避難行動要支援者対策などについて説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分)

	予備知識として、消防庁「防災・危機管理 e-カレッジ」指定箇所を学習しておく。 http://open.fdma.go.jp/e-college/ ④復習(120分) 消防防災博物館の指定箇所に搭載されている各地の防災訓練映像を確認し、さらに知りたいことがある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 http://www.bousaihaku.com/
12	①授業テーマ 平常時の実践例 1（災害図上訓練DIG） ②授業概要 地域の災害対応力を高めるため、平常時に災害ボランティアが取り組んでいる災害図上訓練DIGについて、説明できるようになる（演習）。（B1、C1、E1、I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、災害図上訓練DIGを実施する際の留意点も解説します。（E1） ③予習(120分) 予備知識として、静岡県 DIG のページを確認しておく。 http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/dig/ ④復習(120分) 「DIG」というキーワードでホームページ等を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
13	①授業テーマ 平常時の実践例 2（避難所 HUG） ②授業概要 地域の災害対応力を高めるため、平常時に災害ボランティアが取り組んでいる避難所 HUG について、説明できるようになる（演習）。（B1、C1、E1、I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、避難所 HUG を実施する際の留意点も解説します。（E1） ③予習(120分) 予備知識として、「HUG のわ」ホームページを確認しておく。 https://www.hugnowa.com ④復習(120分) 「HUG」というキーワードでホームページ等を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。それでも疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
14	①授業テーマ まとめと復習 ②授業概要 本科目での学習内容を踏まえ、将来、自分自身のキャリアの中で生かすべきポイントを自己表現できるようになる。（B1、C1、E1、I1） ③予習(120分) これまでの授業内容を講義ノートを確認しておく。 ④復習(120分) 講義ノートを再度確認し、本授業のポイントを理解する。
15	①授業テーマ 災害ボランティアの展望 ②授業概要 授業内容を踏まえ、災害ボランティアの今後の展望について説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 講義ノートを確認しておく。 ④復習(120分) 授業内容を踏まえ、災害ボランティアの今後について、自分なりに展望してみる。
関連科目	特にありません。
教科書	特にありません。授業の際、レジュメ及び資料を配付します。
参考書・参考URL	消防庁「防災・危機管理 e-カレッジ」 http://open.fdma.go.jp/e-college/ 菅磨志保・山下祐介・渥美公秀編『災害ボランティア論入門』（弘文堂） 渥美公秀『災害ボランティア 新しい社会へのグループ・ダイナミックス』（弘文堂） 桜井政成編著『東日本大震災とNPO・ボランティア』（ミネルヴァ書房） 内閣府防災『防災白書』 吉井博明・田中淳編『災害危機管理論入門』（弘文堂）
連絡先・オフィスアワー	- 連絡先 開講時に告知します。 - オフィスアワー 各回授業の後、質問等に応じます。

研究比率	危機管理学100%
------	-----------



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.